

第二十八回企業活性化研究分科会・議事録

<第二十八回 2010年2月6日(土) 時間:13:30~14:30 於:専修大学(神田校舎)>

1. 参加者:山本、井端、星野、木村、古山、大野、魚谷、高市、菅原、齋藤、酒井、杉本

2. テーマ:企業活性化に関する研究

3. 発表内容

テーマ:『粉飾企業の分析』

・報告者:菅原智久(専修大学大学院)

・配布資料:10枚

・報告内容の要旨

本報告は、平成20年5月2日に民事再生法手続開始の申請を行ったニイウスコー株式会社について、同社の粉飾を財務諸表上から推測することが可能か否かを検討している。

同社の調査報告書により、循環取引やリース会社を利用した不適切処理が行われていることが判明している。そのため、分析では循環取引とリース取引を中心に検討した。

循環取引に関しては、商品の増加に着目し、その増加要因を分析している。その要因を分析すると在庫商品の滞留期間の増加が主な要因となっており、また、商品の回転期間が著しく膨らんでいることから、資産の水増しを推測することが可能であるとしている。

次に、リース取引に関しては、セールアンドリースバックの会計処理は、本来、収益の繰延処理を行わなければならないが、同社は一時の収益として計上していた。また、リース会社を利用した循環取引も行っている。これらの点については、注記によるリース資産の残高が異常に膨らんでいることから推測することが可能かもしれない。しかし、当時の会計処理ではリース取引に関して一部オフバランス処理が認められていたこと、またリース会社との関係を見抜くことは困難ではないだろうかと結論付けている。

(文責:齋藤幸雄)